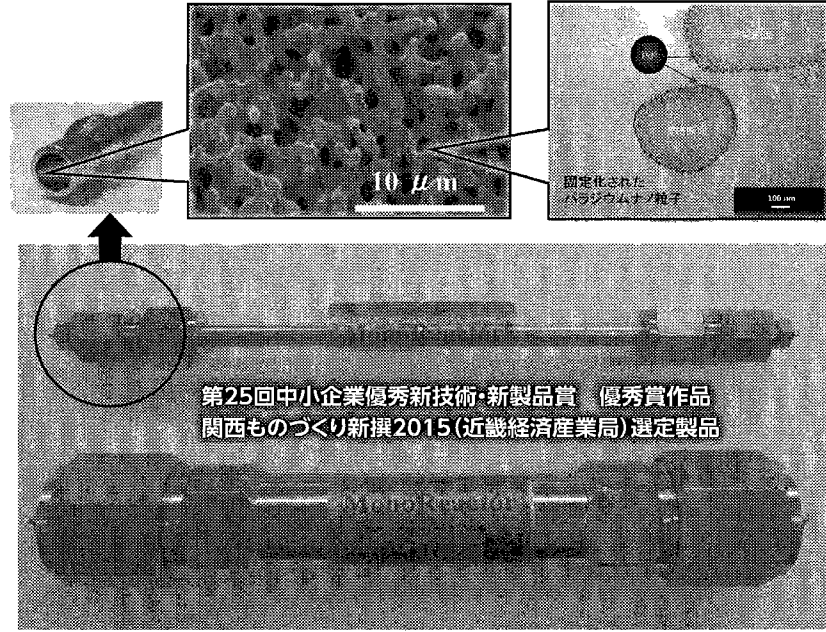


次世代フロー有機合成用ポリマーモノリスリアクター Mono Reactor



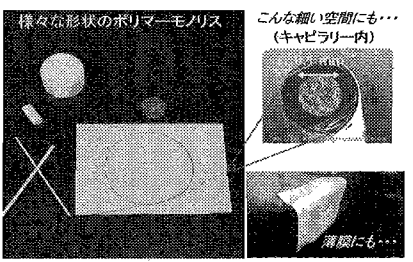
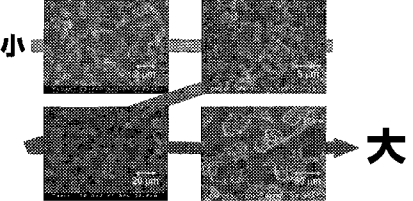
- 通常のHPLC装置で簡単にカップリング反応 (鈴木、宮浦、水素化反応等)ができます。
- 触媒 (Pd) の流出がありません。
- 新規化合物の開発期間・予算を大幅に縮小できます。

株式会社 エマオス京都

〒615-0055 京都市右京区西院西田町26 TEL.075-323-6113
 E-Mail info@emaus-kyoto.com FAX.075-323-6115
 詳しい事業説明は、<http://www.emaus-kyoto.com> でご確認頂けます。

ポリマーモノリスは、非常に均一な細孔と骨格が連続してつながっており、機械的強度が強く、化学的安定性と機能性の高い多孔性高分子材料です。パルクやシート状等のような形・大きさにも作製できますので、是非お問い合わせください。

細孔サイズをコントロールできます



エマオス京都
 石塚 紀生 社長

「モノリスの応用展開として活用できるだろう。また、液体クロマトグラフィーで使うカラムのラインアップも、従来の内径4・6mmに加え、量産用途を見据えた同20mm径のカラムを標準製品化した。また、14年末にはメディア研究所と共同でフローリアクター装置も商品化した。モノリスリアクターカラム専用で、カラムをセットするだけの簡単操作で、高速で

「まず3年以内に売上高1億円を実現する。今まで研究開発に注力してきたが、今年からは市場環境が良くビジネスとして本腰を入れる年だ」と

「3カ年経営計画を打ち出している」

「モノリスの研究、リチウムイオン電池のセパレーターを開発した。耐熱性が高く期待している」

「京都大学内に設けた基盤技術研究所の状況はいかがですか。」

「モノリスの応用展開として活用できる。電子部品向けなどに積極的にアピールしていく」

「マイクロリアクター市場は世界的に活況です。」

「医薬や電子部品などで新しい化合物を作る場合、従来のガラスコでは時間がかかりすぎる。1日かかる反応が数分と反応時間が短く、収率が高いことからマイクロリアクター採用へと動いている。2015年は大きな転換期を迎えそうだ。これまでの研究用とともに量産用が増える」

「その中でも貴社のマイクロリアクターは構造から目玉を集めています。」

マイクロリアクター 量産向け採用で注目

独自構造で収量数百倍

連続体)という独自構造のリアクターを展開している。モノリスは簡単に言うところでは触媒としてパルクが繋がった貫通孔。他のマイクロリアクターに比べて表面積が大きくなり、精度向上とスピードアップを両立できる。収量は数百倍になる試算だ。量産現場への採用をにらんで注目を集めている」

「今後の製品戦略は。触媒やサイズのラインア

「触媒やサイズのラインアップを充実する。現行のリアクターでは触媒としてパラジウムを固定させている。医薬品の中間体や有機ELやLEDの材料の化合物を作るのに向いている。触媒に白金や酵素を採用することで、バイオリリアクター



マイクロリアクターカラム